

# 大阪府立泉北高等学校

## 泉北レモンPromotion班



高校生ボランティア・アワード2022

### 「泉北レモンPromotion」

泉北ニュータウンの特産果実である泉北レモン®を他府県へ広め、SDGs 11番「住み続けられるまちづくりを」の達成に貢献することを目標に探究活動を始めた。特産物の商品開発をすることで知名度を上げることを狙っていたが、特産物の商品はそれを中心としたものが製造されていたことをリサーチの結果知り、新たな手法で泉北レモン®の認知度を高める必要性を感じた。

探究活動を始めた夏休みに、高校で主催される国内研修に参加し、滋賀県高島市安曇川町を訪れ、安曇川町の特産果実であるアドベリーの存在を知り、アドベリー生産協議会の会長梅村氏の講義を聞く機会を持った。その時に、特産品と特産品を掛け合わせることで、双方の地域の活性化につながるのではないか、と思い共同開発を打診した。高島市商工会やアドベリー生産協議会の皆さんとともにオンライン会議を経て泉北高校の校庭で育てた完全無農薬の泉北レモンと、安曇川町のアドベリーを合わせた「アドレモンジャム」を開発した。アドベリーとレモンの比率やレモンの風味が残るようにどのような形状にするかや、商品のパッケージ、レシピ開発、店頭販売のための企画書作成やポップアートづくりなど様々なことにチャレンジした。そして泉北レモンについて多くの人に知ってもらうために作成した高校生が作るパンフレットでは、泉北レモンの創始者である苅谷由佳様に2時間も渡るインタビューを行い、「事実よりも情熱」を意識した内容になるよう努めた。

泉北レモンの販売会である地域のイベント「泉北レモンフェスタ」に参加し、アドレモンジャムを完売した。

高島市安曇川町の道の駅「藤樹の里 あどがわ」にて店頭販売に招待いただき、アドレモンジャムを販売、完売した。

泉北高島屋にて企画プレゼンを行い、販売を了承いただき、店頭販売を行い、19分で完売した。

現在はアドレモンジャムの2次製品開発を株式会社グランディーユ様と共同で行っている。

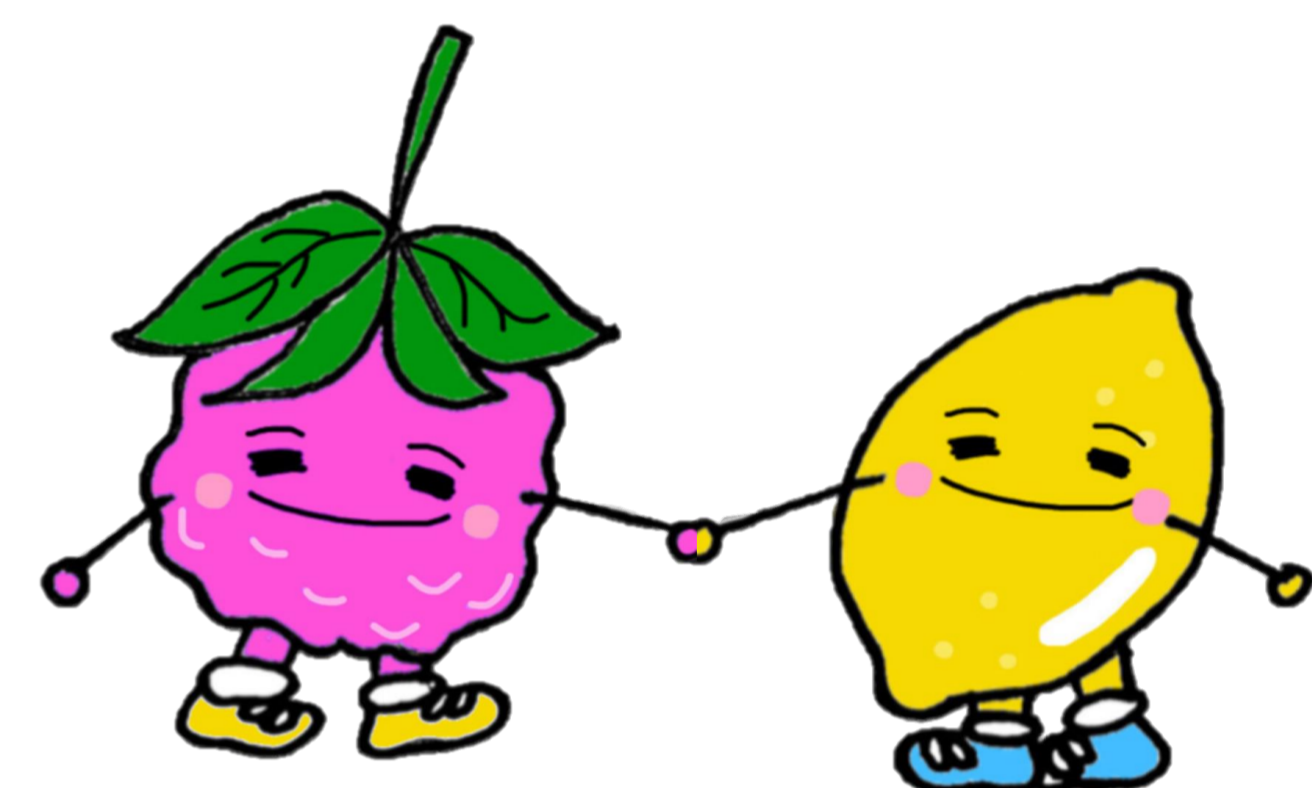
また、堺市の壱輪プリンとのコラボレーションも実現し、世界遺産のプロモーションにも貢献できている。



### 「泉北レモンを他府県へ！」

「JK（女子高生）が本気で泉北レモンを売り込めばBUZZるのではないかな？」という壮大な仮説を立て、その実現の為にいかにBUZZらせるか、を当初の目標として取り組んでいた。しかし、一般社団法人泉北レモンの街ストーリー代表の苅谷由佳様やアドベリー生産協議会の梅村勝久会長、高島商工会の宮前有一朗氏、泉北高島屋の大嶋元氏との出会いを経て、「モノを作る、モノを売る、には責任がある。でもそれ以上にそのモノに対する深い愛情が不可欠だ」や「心から自分の住む街を愛する気持ち」、そして「買っていただけるお客様への感謝」について、大人の目線で考えることができた。

泉北レモンを他府県へ、という目標から、それぞれの地域の特産品をつなげることで、地域と地域を繋げる架け橋の役割を高校生が担うことができた。



### 「アドレモンジャム」効果

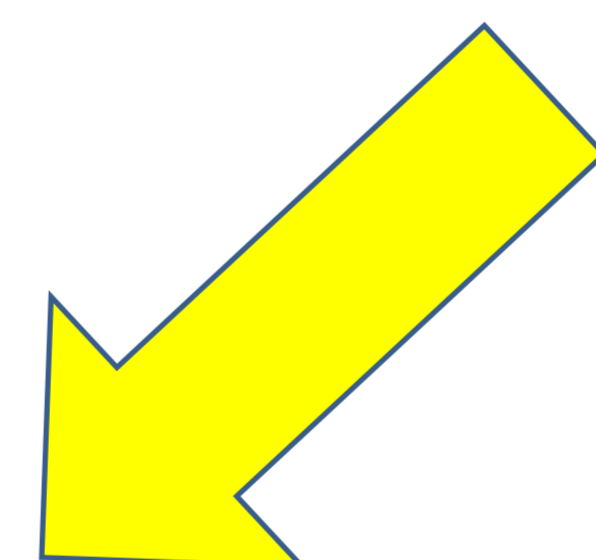
#### 「アドレモンジャム」ができるまで

- ① 泉北レモンの街ストーリー代表苅谷由佳様との出会い。
- ② アドベリー生産協議会代表梅村勝久様との出会い。
- ③ 高島市商工会の宮前有一朗様との出会い。
- ④ 「モノづくり」の大切さを学ぶ。
- ⑤ マーケティング・ブランディング・メディア戦力などについて実践的に学ぶ。
- ⑥ オンライン会議を駆使し企画会議を行う。
- ⑦ 泉北レモンのパンフレットを作成。
- ⑧ パッケージデザイン、キャラクター作成、ポップアップデザインを手掛ける。
- ⑨ 泉北レモンを校庭で栽培、収穫する。
- ⑩ 「青春の味」を追求し、アドベリー：泉北レモンの黄金比率を4：1に設定する。
- ⑪ 「甘酸っぱくてほろ苦い味」を実現するためにレモンの皮をピールではなくクラッシュタイスの形状にし、しっかりとレモンの食感を残す。



#### 「アドレモンジャム」の可能性

- ① 人と人、地域と地域をつなげる効果
- ② 健康に良い成分がたくさん詰まった「青春の味」
- ③ 高校生が社会を動かせるというきっかけ
- ④ 双方の地域にもたらすポジティブなインパクト
- ⑤ 「つくる責任、つかう責任」を学ぶことができる教材



#### 「アドレモンジャム」ができてから

- ① 泉北レモンフェスタにて販売（39分で36個完売）
- ② 道の駅「藤樹の里 あどがわ」にて店頭販売（112分で43個完売）
- ③ 泉北高島屋にて企画プレゼン
- ④ 泉北高島屋にて店頭販売（19分で43個完売）
- ⑤ 株式会社グランディーユ、堺市政策企画部とのコラボレーションでアドレモンジャムを使った2次製品開発（かき水）
- ⑥ アドレモンジャムと現在堺市の新名物として人気の壱輪プリンとのコラボレーションを検討中
- ⑦ アドレモンジャムのストーリーを作成中。次々と更新されていくストーリーのアップデートを現在も継続中



#### パッケージデザインについて

- ① アドベリーと泉北レモンの両端に置き、橋で繋ぐ（架け橋をイメージ）
- ② 背景は琵琶湖をイメージし、暖色を使用
- ③ ピクトグラムでメンバー5人を配置
- ④ 「あどがわ みーつ せんぼく」というフレーズをひらがなで入れる
- ⑤ 周囲をSDGs ホイールのフレームに似せる
- ⑥ 蓋にはレモンの切り口の断面にアドベリーをあしらった。
- ⑦ 少し不完全な画風で高校生らしさを演出

### 「Sustainable BUZZ!!～持続可能なトレンドメイクをめざして～」

バズるという表現はえてして「短期間での集中的な人気の急上昇」を意味し、長く続かないことが多い。私たちの活動は、出口にSDGsを設定することが目的なので、「持続可能な」ものである必要がある。今回のアドレモンジャムの商品開発は多くのメディアや企業様より注目いただき、「バズった」と言えるかもしれないが、持続可能か？と言われると自信がない。よって、以下の2つの観点でこの取組みをSustainable BUZZにしていきたい。

- ① 「アドレモンジャム」が最終形態ではなく、様々な商品やメニューに活用いただけるように、ジャムだけではなく色々な形状に変化できるようなレシピ開発やプロモーションを企業や行政と協働で取り組んでいきたい。そのためには、探究活動を行う後輩につなげる必要がある。私たちの取組みをストーリーにし、バトンを繋ぎたい。「縦と横を繋ぎ持続可能に！」
- ② 「アドレモンジャム」の取組みは地域と地域を高校生が繋ぐというものだった。高校生でも、いや、高校生だからこそできたことだと思う。全国で行われている「総合的な探究の時間」の中で、こうやって地域と地域が繋がる活動が起き、特産物のコラボや文化的交流などを高校生が作り出すことで、地域が日本全体が、BUZZを起こすことが可能なのではないだろうか。その一例として参考にしていただければ「全国の高校生による持続可能な活動」が可能となる。



#### 「泉北高校SDGs探究活動」

大阪府立泉北高等学校では2学年から「総合的な探究の時間」において課題研究を行っている。数あるゼミの中で、SDGs 11番「住み続けられるまちづくりを」の達成に貢献するための探究活動がある。泉北レモンPromotion班は少子高齢化が進む泉北ニュータウンを活性化するために泉北レモンのPromotionに着目し、校内で栽培している泉北レモンを商品開発することで活性化をめざす探究グループである。他にも、泉北レモンの葉や枝を活用した匂い袋開発をすることで家庭内でのレモン栽培を推進する活動や、子どものためのSDGsゲーム開発、人々を笑顔にするためにマイノリティデザインを活用したPromotion活動などがある。